

学びのR

No. 3 1 (令和2年9月)
 埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/sos-hiki/g2201/index.html>

「R」は「reform (改革)」の頭文字です



コバトン

*** 「指導と評価の一体化」で授業改善⑤ *** ~ 「音楽科」(中学校) 編 ~

*今回は、3つの評価の観点の内、「**思考・判断・表現等**」に注目して、指導と評価のポイントを考えます。

Q. 「音楽科」において育成を目指す資質・能力とは？

A. 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力

教科等
の目標

音楽の見方・考え方を働かせ、系統性を意識しながら、資質・能力を育成していくことが大切です。

例えば「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」より

(10) 豊かな感性と表現
 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだり、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

小・音楽科

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

中・音楽科

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、**音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。**

高・芸術科(音楽)

音楽の幅広い活動を通して、**音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。(音楽I)**

Q. 音楽科における「思考力・判断力・表現力等」とは？

表現領域、**鑑賞領域**に関すること

A. **音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさ味わって聴くことができるようになること。**

Q. 「思考力・判断力・表現力等」の育成にはどんなことが必要？

※[共通事項] (1)アに位置付けられている。

A. 「音楽を形づくっている要素や要素同士を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、**知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること**」が必要。

音楽科の「思考力・判断力・表現力等」の育成に関する目標

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする

知覚したこと

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連

関わりについて

考えることが必要

感受したこと

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連が生み出す特質や雰囲気

Q. 知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとは？

A. 要素や要素同士の関連がどのようになっているかを知覚することと、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じることとを**常に**関わらせて音楽に向き合うこと。

教師の役割

過程において、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫することが大切。

【例えば】学習指導要領(平成29年告示)解説音楽編より P33参照

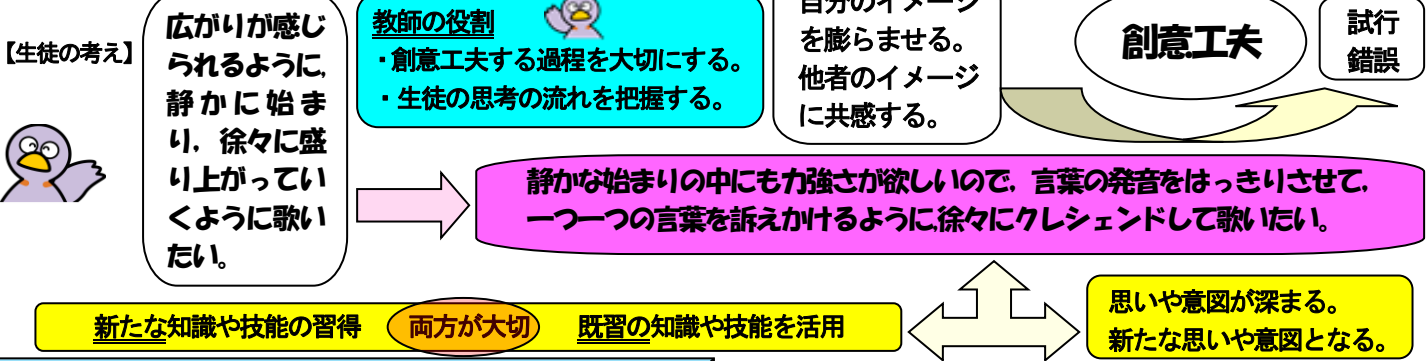
生徒の考え	知覚したこと	感受したこと
フルートによる第二主題が、クラリネットによる第一主題より軽やかに感じられるのは、主題を演奏する楽器の音色が変わって、音が高くなり、旋律のリズムも小刻みになったから。	主題を演奏する楽器の音色が変わって、音が高くなり、旋律のリズムも小刻みになった。	フルートによる第二主題が、クラリネットによる第一主題より軽やかに感じる。

ドンドコドンというリズムと和太鼓の音色から、日本的で、踊り出したいくなるような音楽だと感じる。	ドンドコドンというリズムと和太鼓の音色。	日本的で、踊り出したいくなるような音楽だと感じる。
---	----------------------	---------------------------

Q. 「思考力・判断力・表現力等」は「知識及び技能」を習得してから育成するの？

A. 音楽活動を通して、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を一体的に身に付けられるようにしていくことが大切。

【例】第1学年の歌唱（解説音楽編P38より）



Q. 評価の観点「思考・判断・表現」についての趣旨は？

A. 趣旨は次のとおり。
音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

※学習指導要領
【共通事項】の**A表現(1),(2),(3)**
それぞれのA
B鑑賞(1)A
に示してある内容に対応

Q. 「思考・判断・表現」において「努力を要する」状況と判断されそうな生徒への働きかけの例は？
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校音楽）事例3 P68～P74より

【例】第2学年及び第3学年 B鑑賞 及び 【共通事項】(1)
題材の目標 音楽の多様性を理解して、世界の様々な合唱のよさや美しさを味わおう。(第3学年)

【評価規準】
思①音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。

【評価規準】
思②音楽表現の共通性や固有性について考え、それらの曲のよさや美しさを味わって聴いている。

【生徒の様子】 問われている内容の理解が不十分、何をどのように書けばよいのか分からず困っている。 生徒の状況を把握する。

【思①の働きかけの例】

- ・どこに何を書くのか、個別に説明する。
- ・「女の人だけで歌っていましたか？それとも男の人だけでしたか？」などと問いかけ、問われている内容の理解を促す。
- ・他者の意見や板書の内容を取り入れるなどして、自分の考えが書けるように促す。

生徒の状況に合わせてスモールステップで働きかける。
学習内容や生徒の実態により様々な働きかけが考えられますね。

【思②の働きかけの例】

- ・「一番気に入った曲はどれですか？」「どんなところが気に入りましたか？」「それはどうして？」などと設問に迫っていきけるようにする。
- ・「ワークシートや板書を見て、自分の聴き取ったことや感じ取ったことをもう一度まとめるつもりで書いてみよう」などと助言するなどして、自分の考えが書けるように促す。

本時例の〈思考・判断・表現〉の総括例

- ア 思①、思②が順に「A, B」, 「B, A」, 「B, C」, 「C, B」 → 思②の評価結果を総括の評価結果とする。
 - イ 思①が「A」, 思②が「C」 → 「B」と総括する。
 - ウ 思①が「C」, 思②が「A」 → 思②が思①を上回った場合は、学習の深まりや向上などを考慮して、思②の評価結果を総括の評価結果とする。
- 【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校音楽）P74より】

「学びのR」
はこちらからも御覧いただけます！

